2019年度事業報告書

（2019年4月1日～2020年3月31日）

2020年3月31日

公益財団法人東京陸上競技協会
代表理事（理事長）平塚　和則

2019年度　公益財団法人東京陸上競技協会　事業報告

陸上競技および陸上競技の持つノウハウを生かし、東京都のスポーツ文化振興の推進役とし、設立の昭和10年から80余年の年月にわたってその役割を果してきました。

公益財団法人になってから7年目に入る2019年度も、3本の活動目標を掲げ、定款に掲げている事業と共にさらに、陸上競技を通じて都民のためのスポーツ界の事業振興と、側面からの東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催に向けて、事業を進めてきました。残念ながら新型コロナウィルスの影響で、開催が延期となりました。また、2月からのマラソン等の道路競技、2020年度の競技会の準備等の業務ができなくなり、厳しい年度の締めとなってしまいました。

１．魅力ある東京陸協を目指す

当法人の登録会員は、小学生・中学生・高校生、大学生、実業団までの陸上競技を主体に活動する若年層の会員、職域・一般クラブなどで陸上を愛好する人たちの会員等、競技力向上を目指す人達や、陸上競技を通じて健康増進にスポーツを楽しんでいる人達で構成されています。スポーツ文化推進の役割を担う当法人としては、魅力ある事業と感じるとともに、公益法人として心・技・体のバランスを持った人達の為に、年齢、目的、目標に合わせて事業を進めてきました。

（１）組織強化と業務遂行の仕組みづくりへの取組み

公益法人として発足して6年が経過し、その間、スポーツを取り巻く環境も大きく変化してきており、スポーツ組織に求められているインテグリティ、コンプライアンス等で、健全性、公平性、不正の撲滅を進めて行かなければ、安全なスポーツの環境は、あり得ないと強く叫ばれてきています。厳し環境の中で当法人の果たす役割は大きくなってきています。業務運営を円滑に進めて行くに必要な事項を定款や基本的な諸規程に反映させ改定しました。

（２）人材育成と人材発掘

一般社会において少子高齢化が進んでいる中、老後をエンジョイする高齢者でありたいとスポーツを通して、健康を維持のする人たちが会員の中に多くを占めてきました。同様に、当法人の役員も高齢化が進みつつあります。

また、競技運営面では、トラック＆フィールドの競技において、中・高体連の大会と当法人の主催する公認大会が多く開催されており、魅力ある競技会運営を行うために人材育成は緊急の課題となっています。

専門委員会を含めた役員に対する人材の発掘・育成を推進する諸施策のひとつとして、女性役員を登用する規程を整備し、さらに多くの女性が活躍できるよう環境の整備をしました。

（３）魅力ある大会・競技会運営への取組み

当法人としましては、次の６つの分野での取り組みを推進しました。

①　オリンピック・パラリンピックにおける競技運営を見据え、全国大会のひとつとしてグランプリプレミアムシリーズにおける「TOKYO　Combind　Evennts　Meet

2019（混成グランプリ）とWAパーミット大会の認証を取り「元旦競歩大会」を世界レベルの大会として2018年同様に開催しました。

② 東京都における最強のチャンピオンを決める「東京陸上競技選手権大会」の開催。

③ 東京都の各世代のチャンピオンを送り出す「国体東京都代表選手選考会」、「東京ジュニア陸上競技大会」、「全国小学生陸上東京代表選手選考会」を開催。

④ 小・中学生を対象としたジュニア競技者の育成・強化を目的に、「ジュニア陸上競技チャレンジカップ」、「中学生春季陸上競技会」を開催し、スタンドと一体となる競技運営を展開しました。

⑤ 女性の社会進出を側面からサポートし、育児、家事等と両立できるような「東京ウィメンズ陸上」を実施しました。

⑥ 地域や企業があらゆる分野の陸上競技（ジョギングを含む）を通して、健康促進や仲間と楽しむことを目的とする「都民体育大会」、「都民生涯スポーツ大会」、「シニア健康マラソン大会」、「東京都障害者スポーツ大会」での陸上競技大会の運営と「駒澤6時間耐久レース」、[MINATOハーフマラソン]、「新宿シティハーフマラソン」、「青梅マラソン」、「東京マラソン」などを開催しました。

残念ながら台風、コロナウィルスの影響で、大型市民マラソンの「立川シティハーフマラソン」、「板橋Cityマラソン」が中止となりました。

（４）東京陸協をアピールする取組み

「東京陸協ホームページ」を充実させ、速報性のある情報提供と効果的な「東陸ニュース＆トピックス」を発信しました。

（５）東京２０２０オリンピック・パラリンピック運営への取り組み

開催地としての位置付けのもと、当法人としては、スタジアム競技（トラック＆フィールド）における審判員の一部、マラソン・競歩のロード競技について競技役員、競技ボランティアを派遣することになりましたが、東京2020オリンピック・パラリンピック大会は、延期となりました。

また、東京２０２０オリンピック・パラリンピックに向けて機運醸成を図るために東京都、各障害者協会が行う陸上デモンストレーションに協力をし、２０２０五輪をイメージした「20m20ｃｍかけっこ」を都内各地で開催をしました。「未来への道1000ｋｍ縦断リレー」など東京都と共催、後援大会においても積極的にオリンピックのPR活動をしてきました。

２．さらに「強い東京」を目指す

加入団体・協力団体、多くの指導者の協力と競技者自身の努力もあり、全国大会で「チーム東京」が、一丸となって戦うようになってきました。さらにオリンピックでメダルを獲得できる競技者の育成強化事業を継続しいていくことにしました。

（１）ジュニア強化への更なる連携強化の取組み

① 2019年度も小学生から社会人（実業団）の競技者強化の目的にあわせて小学生は東日本都道県交流大会への派遣、合同練習会、強化合宿等の実施、中学生、高校生は合同練習会、強化合宿等の強化事業を推進してきた結果、皇后盃、全国都道府県対抗女子駅伝は総合3位に入賞ができました。

② ジュニア競技者に対する普及強化や安全で正しく楽しいスポーツが出来るよう、

地域のスポーツ組織での専門的な技術者の養成や競技力の向上を図るために、陸上競技指導者講習会を実施しました。

（２）大学・企業チームとの更なる連携強化への取り組み

強い「チーム東京」を編成していく中で、「東京生まれの東京育ち」の選手が「ふるさと東京」の代表となるように、大学、企業チームと一体になって選手の派遣を進めました。

（３）国体天皇杯、皇后杯の継続的な取組み

東京都における競技活動の活性化をはかる目的で、国民体育大会や全国都道府県対抗駅伝大会等へ東京を代表する競技者を派遣し、競技者に陸上競技の喜びを経験する機会と競技者相互の交流を深める場を提供してきました。

あわせて、将来、強化指定競技者になるような人材を見極めるために、中・高校生が主体となるような合同練習会等を実施しました。

（４）東京２０２０オリンピックへの東京代表選手派遣の取組み

東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会に多くの東京都代表選手を派遣できるように東京都オリンピック・パラリンピック準備局が認定した「東京アスリート制度」に加えて、当法人が指定した「東京陸協特別強化選手」の対象者に対してオリンピック出場を目指した強化策や側面からのサポートを推進してきました。

３．財政の健全化を目指す！

財政が安定してこそ諸事業を安心して推進することができます。財政健全化の為に、今まで以上に新規協賛金の発掘と経費削減への取組みを以下の項目を基本にして進めてきました。

（１）基本財産を増加させる取組み
（２）収益増加と経費削減への取組み
（３）寄附金、賛助会員(賛助寄附金）増加への取組み
（４）スポンサー企業の獲得強化への取組み
（５）関係諸団体との更なる連携強化への取組み

残念ことに 3 月開催予定だった大会の中止による収入減は、事業運営に大きな痛手を残しました。

2019 年度「３本の重点項目」は、相互にそれぞれの取組みをサポートする関係にあると考え、事業を進めてきました。

以上